

総合的な学習の時間

1 総合的な学習の時間における学習指導の基本的な考え方

総合的な学習の時間では、問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究的な学習とすること、他者と協同して課題を解決する協同的な学習とすることが重要である。加えて、体験活動を重視すること、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実を図ること、各教科・科目等との関連を意識した学習活動を展開することなどを踏まえ、学習指導を行うことが大切である。

ここでは、各教科・科目等との連携を図り、学習の目標及び内容、育てようとする力、授業計画、学習の評価の計画などを示した全体計画を作成し、実践している高校の例を紹介する。

総合的な学習の時間の全体計画（例）

<p>A高校では、総合的な学習の時間と、各教科及び特別活動との関連を意識するとともに、指導と評価の一体化を図った全体計画を作成している。</p>	「総合的な学習の時間」	21世紀型学力を育成する探究的な学習			第1学年・1単位 / 第2学年・1単位 / 第3学年・1単位		
	1 学習の目標	「主体的で新しい知を創造する探究型教育の推進」					
	2 育てようとする力	KJ法やブレインストーミング等の思考ツールの活用、グループ活動による協同的な学び合いを通して、思考力・判断力・表現力の育成や、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の定着を目指す。					
		第1学年	第2学年	第3学年			
3 学習内容とねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○広く考える力 ○主体的に学ぶ力 ○調べる力、聞く力 ○自己を理解する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○論理的に考える力 ○創造力・構成力 ○議論し合意形成する力 ○人間関係を形成する力 	<ul style="list-style-type: none"> ○合理的に考える力 ○課題を発見する力 ○説明する力 ○職業観・勤労観 ○社会的責任の自覚 				
<p>育てようとする力</p> <p>「学習の目標」を実際の学習活動へと実践化するため、より具体的・分析的に示している。</p>	<p>(1) 1学年 思考ツールの活用方法を学び、その活用を体験するとともに、グループ活動による協同的な学び合いを行い、「調査方法の体得」、「俯瞰的に事物を把握する能力の育成」等を目指す。具体的には、「ICTを活用した学問調べ」や「新聞教材活用学習」等を行う。</p> <p>(2) 2学年 思考ツールの活用を体験し、そこから論理的思考力を体得するとともに、グループ活動による協同的な学び合いを行い、「論理的思考力の育成」、「自らのキャリアについて調査・研究する能力の育成」等を目指す。具体的には、「小論文論理構築学習」や「学習ガイダンス」等を行う。</p> <p>(3) 3学年 思考ツールの活用と、グループ活動による協同的な学び合いにより、自らの考えを深め伝える学習を行い、「社会への関心と問題意識を持ち、自らの考えを深め伝える力の育成」等を目指す。具体的には、「テーマ学習」や「タイプ別小論文学習」等を行う。</p>						
<p>授業計画</p> <p>各学年の学習内容を各項目ごとに具体的な授業計画として示している。また、体験活動の具体を示したり、KJ法等の思考ツールを、言語活動として示したりしている。</p>	4 授業計画	※（ ）は実施月を示す					
<p>教科等との連携</p> <p>総合的な学習の時間で身に付けた知識・技能を教科等で活用したり、各教科等の学習意欲を高めたりするため、教科等との関連を示している。</p>	<p>学習の評価</p> <p>学習の進歩や成長の状況を総合的に判断するため、「評価の方法」と「評価の観点」を具体的に示している。</p>	項目	第1学年	第2学年	第3学年		
		学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習ガイダンス (4) ○学習ガイダンス (4) ○図書館ガイダンス (4) ○思考ツールの使用法 (5, 7) 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習ガイダンス (4) ○学習ガイダンス (4) ○論理的思考演習 (6, 7) ○小論文論理構築学習 (6, 12, 1) ○コース選択ガイダンス (5) 	<ul style="list-style-type: none"> ○総合学習ガイダンス (4) ○タイプ別小論文学習 (6, 7, 9) ○個人面接、個別指導 (4~10) 		
		キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> ○進路講話 (1) ○職業研究 (6) ○インターンシップ報告会 (8) ○テーマ学習発表会 (9, 10) 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別ガイダンス (1) ○インターンシップ (4~6, 9~1) ○インターンシップ報告会 (8, 2) ○テーマ学習発表会 (9, 10) 	<ul style="list-style-type: none"> ○テーマ学習 (4, 6, 7) ○進路別ガイダンス (5) ○インターンシップ報告会 (8) ○面接指導 (8) 		
		情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用した学問調べ(11~1) ○職業研究 (6) ○現代社会キーワード学習 (6, 7) ○新聞教材活用学習 (6, 7) 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路研究 (9, 11~1) ○プレゼンテーション (8, 10, 2) ○小論文発表 (7) 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路情報収集 (4, 5) ○プレゼンテーション (8, 10) ○テーマ学習発表会 (10) 		
		体験活動	○ボランティア活動 ○読書活動 ○各種HR活動 ○インターンシップ				
言語活動	<ul style="list-style-type: none"> ○ブレインストーミング ○マインドマップ ○ディスカッション ○KJ法 ○プレゼンテーション ○スピーチ 						
教科等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○PDCAサイクルによる授業評価（生徒・教員相互）【全教科】 ○プレゼンテーション授業【情報】 ○言語活動の充実【全教科】 ○思考ツールの活用【数学、地理歴史、理科、保健体育等】 ○協同的な学び合い【国語、数学、英語、芸術、特別活動等】 ○新聞を活用した学習【国語、地理歴史、公民等】 ○「レポート作成マニュアル」を活用した学習【理科、情報】 						
5 評価の方法と観点	総合的な学習の時間の目標「思考力・判断力・表現力、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力」を踏まえて観点を定め、レポートや小論文等の提出物、自己評価、相互評価、観察評価を組み合わせて総合的に評価を行う。						
思考力・判断力・表現力	前に踏み出す力	考え抜く力	チームで働く力				
<ul style="list-style-type: none"> ○収集した情報を複数の視点から考えたり、自分の考えを論理的に表現したりすることができる。 ○事象や事象間の関係と比較したり、複数の因果関係を推理したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手や目的、意図に応じて主体的に学習に取り組もうとする。 ○目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に着実に行動しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・実的に分析することができる。 ○課題の解決に向け、粘り強く取り組み、考え抜こうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。 ○チームで協同的な作業に積極的に取り組もうとする。 				

2 総合的な学習の時間における年間指導計画

(1) 年間指導計画作成上の留意点

総合的な学習の時間における年間指導計画を実際に作成するための留意点を次に示す。各学校においては、これらの点に配慮しつつ、年間の学習活動がイメージできるような簡潔な年間指導計画を作成することが望ましい。

① 生徒の実態や特性に配慮する

- 生徒の実態、課程や学科、進路の希望など生徒の特性や学校の特色に応じた計画となるよう創意工夫する

② 十分な見通しを持った周到な計画にする

- 卒業までを見通して単位の履修と修得ができるよう、綿密に計画する
- 単位の認定の時期と履修を認定する要件を計画段階で明確化する
- 年度末毎に見直しを行い、実際の単元の目標、学習活動、評価等が生徒の実態に合っていたか、学校や地域の特色を生かしていたか、実施時期や時数の配分は適当だったか等について検証し、見直しを図る

③ 季節や行事など適切な活動時期を生かす

- 生徒が実社会との接点を生み出せるような学習を行うよう配慮する
- 実生活や社会における問題を学習対象とし、問題解決に向けて探究活動を行う
- 活動に当たっては、現代社会の変化や社会背景、地球規模等の視点を生かした多面的な分析を行わせることや、自分自身の生活や行為とのつながりを意識させること、これからの社会の在り方を考えさせることなどの工夫をする
- 問題解決や探究活動を通して実社会に働きかける学習を展開する

④ 各教科・科目、特別活動との関連を図る

- 各教科・科目、特別活動との関連を図る
- 学習指導要領で各教科・科目、特別活動の内容を確認し、関連を図ることが可能な単元については、相乗効果が得られるように実施時期や指導方法を調整する
- 各教科・科目、特別活動との関連を明示した年間指導計画の書式を工夫する

⑤ 学年間の関連を見通す

- 卒業までを見通して、学習課題や学習活動に複数学年での重複や偏りがないか、学年の進行に応じた学習の質的な高まりや段階的な積み上げがあるかなど、学年間の関連を見通す

⑥ 弾力的な運用に耐えうる柔軟性をもつ

- 生徒の興味・関心や問題意識が当初の計画と異なったり、想定していた生徒の姿と実際の姿との間に大きな隔たりが生じたりする場合、単元の途中であっても柔軟に修正する
- 修正に当たっては、実現の見通しが十分あるか、生徒が意欲をもって探究できるか、新しい学習活動に質的な高まりが得られるかなど、当初の計画よりも質の高い探究が可能かを見極める

⑦ 外部の教育資源の活用及び異校種の連携や交流を意識する

- 保護者や地域住民、研究者や専門家などの人的な資源や、公民館、図書館、博物館などの社会教育施設、企業、NPO等の組織的な資源を工夫して活用する
- 活用に当たっては、日頃から外部との連携や協力を意識し、関係づくりに努める
- 異校種の連携や交流を行う場合、生徒に交流を行う必要感や必然性があるかどうか、交流相手にも教育的な価値のある互恵的な関係を築くことができるかどうか等の点に配慮する

(2) 年間指導計画作成の手順と留意事項

総合的な学習の時間における年間指導計画を実際に作成するための具体的手順と、それぞれの段階における留意事項の例を次に示す。

	手 順	年間指導計画作成に当たっての留意事項	チェックボックス
I 素案の作成	I：学校の全体計画と関連付けて単元を配列した素案の作成	ア 学習指導要領で総合的な学習の時間の「第一の目標」を確認する イ 実施しようとする単元展開と自校の「目標及び内容」、「育てようとする資質や能力及び態度」との間に整合性があるか確認する ウ 実際に単元の予定を入れ込み、年間指導計画を作成する エ 学科やコースの特色・学校の経営方針との関連を図る	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
II 素案の吟味・修正・改善	II-1：生徒の意識の流れの把握	ア 生徒の実態や特性について把握する【①】 イ 生徒の意識の実態に照らして、1年間の意識の流れに無理がないか検討する	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	II-2：単元配列の検討	ア 年間を通して学ぶことが期待される内容が当該学年の生徒にふさわしいか検討する【①】 イ 年間を通しての資質・能力・態度の育成が無理なく確実に進むように配列されているか確認する ウ 単元の実施が実社会と接点をもっているか検討する【③】	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	II-3：各教科等及び学年間の関連	ア 各教科・科目等の年間指導計画を把握し、関連について検討する【④】 イ 他の学年や3年間を見通し、学習活動の水準が当該学年として適切か、質的な高まりや積み上げがあるか検討する【⑤】	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	II-4：地域素材の教材化及び外部資源の活用	ア 地域の素材をとらえ、実地調査をする イ 地域の行事等について、日程と内容の両面から関連を検討する【⑦】 ウ 地域の外部資源が適切に活用されているか検討する【⑦】 エ 異校種、異年齢の人との交流や連携が無理なく位置付いているか検討する【⑦】	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
III 管理と運用	III-1：授業時数の管理と運用	ア 探究活動を行うために必要な時数が確保されているか検討する イ 単元の途中では、実施した授業時数を確認し、教育課程上の授業時数が確保されているか確認する ウ 単位の履修と修得の認定のために必要な授業時数が確保されているか確認する【②】	<input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/>
	III-2：年間指導計画の弾力的運用	ア 単元の途中では、生徒の興味・関心や問題意識が探究課題や学習課題とずれていないか確認し、ずれが生じた場合には、年間指導計画に変更や修正を加える【⑥】	<input type="checkbox"/>

表中の【 】の数字は、p.124「2 総合的な学習の時間における年間指導計画 (1) 年間指導計画作成上の留意点」の①～⑦の各項目に対応している。

3 総合的な学習の時間の評価

(1) 育てようとする資質や能力及び態度

総合的な学習の時間の評価については、総合的な学習の時間において育てようとする資質や能力及び態度、取り組む学習活動や内容を生徒の実態に応じて明確に定め、どのような力が身に付いたかを適切に評価することが大切である。また、学校が定めた目標及び内容を踏まえて適切に観点を定め、その観点に基づいて生徒の学習状況をよりよく改善するものであるということに十分留意しなければならない。

育てようとする資質や能力及び態度とは、学校において定める目標を、実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示したものであり、学校の目標が実現された際に現れる望ましい生徒の成長の姿を示したものである。

次の表に示す3つの視点は、これまで全国で取り組まれてきた実践事例の中で見出されてきたものとして学習指導要領解説に例示されたものであり、各学校においては、

これらの視点や、育てようとする資質や能力及び態度の具体例を参考に、学校が育てようとする資質や能力及び態度を設定することが必要である。

視 点	育てようとする資質や能力及び態度の具体例	
学習方法に関すること 生徒が横断的・総合的な学習や探究的な学習を主体的、創造的に進めていくために必要な資質や能力及び態度に関する視点	課題設定	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。 ・仮説を立て、それに適合した検証方法を明示した計画を立案する。
	収集分析	<ul style="list-style-type: none"> ・目的に応じて臨機応変に適切な手段を選択し、情報を収集する。 ・必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する。
	思考判断	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な問題状況における事実や関係を構造的に把握し、自分の考えを形成する。 ・視点を定めて多様な情報から帰納的・演繹的に考察する。 ・事象や事象間の関係を比較したり、複数の因果関係を推理したりして考える。
	表現省察	<ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する。 ・学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする。
自分自身に関すること 生徒自身の生活や行為の在り方、あるいは自己理解や自己省察に必要な資質や能力及び態度に関する視点	意思決定	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について当事者意識と責任感を持って意思決定する。
	計画実行	<ul style="list-style-type: none"> ・目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的かつ確実に行動する。
	自己理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する。
	将来展望	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の将来について具体的に考え、夢や希望を持つ。
他者や社会とのかかわりに関すること 他者との協同や社会とのかかわりに必要な資質や能力及び態度に関する視点	他者理解	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。
	協 同	<ul style="list-style-type: none"> ・互いを認め特徴を生かし合い、協同して課題を解決する。
	共 生	<ul style="list-style-type: none"> ・環境の保全について主体的、協同的に行動する。
	社会参画	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の解決に向けて、多様な社会活動に当事者意識をもって参画する。

(2) 評価の観点の設定

評価の観点については、上記の「学習方法」や「自分自身」、「他者や社会とのかかわり」に関する3つの視点に配慮しつつ、各学校において定めることとなっている。評価の観点を定める場合、次の3つの観点を参考にすることが考えられる。

ア 総合的な学習の時間の目標を踏まえた観点

「よりよく問題を解決する資質や能力」、「学び方やものの考え方」、「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」及び「自己の在り方生き方」等、総合的な学習の時間の目標に例示された各観点を通して評価することで、総合的な学習の時間の目標の実現状況を評価することに直接的につなげることができる。

<評価の例>

① 単元名「キャリア教育～インターンシップ（訪問先の情報を収集し分析する）」（15時間）

② 単元の目標

職場取材や就業体験によって収集した情報を社会への貢献度や将来の方向性などの視点で分析したり、提案したりすることを通して、自己の在り方生き方について考えたとともに、夢の実現に向けて今後の高校生活を過ごしていこうとする。

③ 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する。

イ 学習の仕方や進め方を内省し、現在及び将来の学習や生活に生かそうとする。

【自分自身に関すること】

ウ 自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

エ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。

④ 単元の評価規準

よりよく問題を解決する資質や能力	・学習活動で得られた気づきをもとに、職業に対する自己の考えをレポートにまとめている。 【③のイ】
学び方やものの考え方	・企業の会社案内等の情報をKJ法的手法で分析し、社会的役割など訪問時の視点を明らかにしている。 【③のア】
主体的、創造的、協同的に取り組む態度	・職場取材での体験を交流し、他者の気づきを受け入れ、理解している。 【③のエ】
自己の在り方生き方	・夢の実現に向けたこれからの高校生活の在り方について、体験をもとに主体的に文章にまとめている。 【③のウ】

イ 学校で定めた「育てようとする資質や能力及び態度」を踏まえた観点

学習指導要領に示された「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」及びその具体として「課題設定の力」、「情報収集の力」、「将来展望の力」、「社会参画の力」などの観点を設定することにより、実現したい生徒の姿を明らかにすることができる。

<評価の例>

① 単元名「地域貢献～地域活性化プロジェクト」(20時間)

② 単元の目標

地域に関する研究成果の発表活動を学校内外で繰り返し実施することで、他者の考えを知り、地域への理解を深め、地域社会に貢献するとともに、自己の在り方生き方を明らかにしようとする。

③ 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 相手や目的、意図に応じて、手際よく論理的に表現する。

【自分自身に関すること】

イ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に着実に行動する。

ウ 自己の将来について具体的に考え、夢や希望をもつ。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

エ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。

④ 単元の評価規準

表現力	・地域貢献に関する自分の考え及び自分自身の成長について、相手や目的に応じて構成や展開を工夫し発表している。 【③のア】
計画実行	・作成したリーフレットが地域社会に役立つ内容かを検討しながら改善計画書を作成し、リーフレットを修正している。 【③のイ】
将来展望	・自分が生活する地域の将来を考え、地域の一員としての自己の在り方生き方について文章にまとめている。 【③のウ】
他者理解	・リーフレットの内容を地域に役立つものにするため、他者の意見を参考に修正している。 【③のエ】

ウ 各教科の評価の観点との関連を明確にした観点

総合的な学習の時間の学習活動に関わる「関心・意欲・態度」、「思考・判断・表現」、「技能」及び「知識・理解」等と観点を定めることで、各教科との関連が明確になるとともに、学習課題や学習対象、学習事項などの内容についての実現状況を評価しやすくなる。

<評価の例>

① 単元名「いのちを見つめる」(20時間)

② 単元の目標

個人研究によるレポート作成とその発表を通して、自分や自分を取り巻く様々な「いのち」の存在や大きさに気づき、自己の在り方生き方を考えるとともに、収集した情報や知識を活用して、自己の考えをまとめることができるようにする。

③ 単元で育てようとする資質や能力及び態度

【学習方法に関すること】

ア 複雑な問題状況を踏まえて適切な課題を設定する。

イ 必要な情報を広い範囲から迅速かつ効果的に収集し、多角的・实际的に分析する。

ウ 相手や目的、意図に応じて手際よく論理的に表現する。

【自分自身に関すること】

エ 自らの生活の在り方を見直し、改善に向けて日常的に実践する。

【他者や社会とのかかわりに関すること】

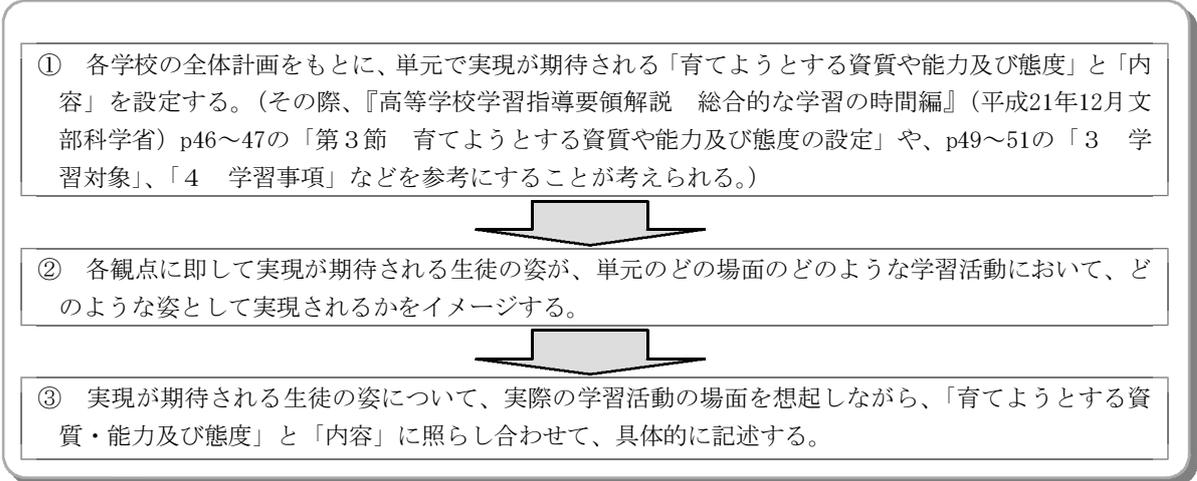
オ 異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重し理解しようとする。

④ 単元の評価規準	
関心・意欲・態度	・自分の興味・関心の方向を探り、社会的な事柄や生活の中から「いのち」の価値に結び付く適切な課題を設定しようとしている。 【③のア】
思考・判断・表現	・「いのち」に関して収集した情報を複数の視点から考えたり、自分の生活とつなげたりして、多角的にレポートにまとめている。 【③のイ】 ・1年間の振り返りシートを活用するなどして、かけがえのない「いのち」を持つ自分について考え、自らの生活の在り方を具体的に見直し、改善に向けて実践している。 【③のエ】
技能	・個別課題をまとめたレポートを視覚的に訴える資料に再構成して提示し、聞き手に応じて分かりやすく論理的に発表している。 【③のウ】
知識・理解	・「いのち」に関して様々なアプローチしている他者の意見に耳を傾け、「いのち」に対する理解が深まっている。 【③のオ】

(3) 評価規準の設定

総合的な学習の時間において生徒の学習状況を評価する際には、その単元で実現をねらう「育てようとする資質や能力及び態度」及び「内容」を十分に踏まえる必要がある。

したがって、各単元において評価規準を設定する場合には、生徒が取り組む学習活動との関連において、各観点に即して期待される生徒の姿を想定し、具体的に設定することが考えられる。



(4) 評価結果の総括と指導要録の記載

評価結果の総括に当たっては、評価の場面や単元における評価結果を総合し、「総合的な学習の時間の記録」に記述する。その際、評価規準に関わらず、教育的に望ましい成長や価値ある学習状況が現れた場合、生徒の姿を価値付け、そのよさを記述することが大切である。

指導要録における「総合的な学習の時間の記録」の記述については、この時間に行った学習活動を記入した上で、それらのうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合にその特徴を記入するなど、生徒にどのような力が身に付いたかを文章で記述する。記載に当たっては、単なる活動のみにとどまることがないように留意することが必要である。また、評価の観点は、生徒の成長や学習状況を分析的に評価するためのものであることから、設定した評価規準と実際の学習状況とを照らし合わせて評価していくことが考えられる。その際、生徒の学習活動を記録したり、生徒の作品などを保存したりして、評価資料を集積しておくことが大切である。